

## 串本・和歌山から宇宙の可能性を探る 宇宙シンポジウムin串本

ホテル&リゾート和歌山串本で8月20日、県主催の第5回「宇宙シンポジウムin串本」が開催され、会場では約250人、オンラインでは約360人が参加しました。

シンポジウムでは、民間で世界初となる月面着陸に挑戦した「ispace」の袴田武史CEOや、宇宙産業のサービスを展開する「Space BD」の永崎将利社長が登場。また、串本古座高等学校のCGS部は、缶サット甲子園でのモデルロケット打ち上げ



聴衆も参加したパネルディスカッション



活動記録を発表する串本古座高校生

や、ロケットをイメージした商品開発などの活動記録を壇上で紹介。「串本でロケットが打ちあがること、串本が素敵な町であることをもっと多くの方に知ってもらいたい」と意気込みを語りました。

パネルディスカッションでは、東京大学大学院工学系研究科の中須賀真一教授、JAXA研究開発部門の河本聡美主幹、串本古座高校・藤島徹教諭も参加し、宇宙教育等をテーマに討議。また、スペースワン(株)の遠藤守取締役からはロケット初号機の延期が発表され、「発射日が確定した場合、2カ月以上前に報告する」旨が伝えられました。



アイスペース  
(株) ispace  
代表取締役 CEO  
& Founder  
はかまだ たけし  
袴田 武史 さん

「宇宙に経済圏をつくる」ことが重要。月の水をロケット等の燃料にし、宇宙に「ガスステーション」をつくることで、宇宙の輸送コストを大きく下げ、宇宙での活動の経済合理性をあげることができる。今の地球での豊かな生活は「宇宙のインフラ」によって支えられ、これからはますます依存度は高くなる。宇宙のインフラの経済合理性を高めることは、地球の持続可能性を担保するためにも大変重要。2040年には月面に1000人が生活している未来がくるのではと考えている。こうした世界をつくるため、まずは「月への定期的な輸送便」を作っていくことから始めようとしている。

今、宇宙産業は大きな変革期がある。諦めず歩み続けてほしい。



スペースビーディ  
Space BD (株)  
代表取締役社長  
ながさき まさとし  
永崎 将利 さん

スペースワンが進める小型ロケットでの輸送サービスは、自分で行先(宇宙空間での軌道)を決めたい方にとって、世界的にも非常に期待されているもの。我々は人工衛星など宇宙空間に荷物を届けたいお客様を、技術調整など含めてマッチングすることが仕事。もっと多くの方に宇宙を使ってもらうため、ユーザー拡大にも取り組んでいる。「宇宙を利用する」ハードルを下げていきたい。

中高生に伝えたいことは、過去の自分は将来の自分が正当化するものということ。決断に迷っても心に決めたものがあれば信じて頑張ってほしい。また「やりたいこと」を見つげるのに焦る必要はない。自分がどんな生き方をしたいか、どんな大人になりたいかと考えて生活してほしいと思う。